



マミヤカメラクラブ

マミヤカメラクラブはマミヤカメラをご愛用の方ならどなたでもご入会いただける写真クラブです。
マミヤカメラクラブ会報誌 (Mamiya Gallery) の発行 (原則年2回)。プロ写真家による撮影会・勉強会・セミナーの開催。webギャラリーで会員の作品展示。マミヤ製品修理・点検料金の割引等と会員特典もたくさんあります。マミヤカメラに関する情報、会員相互の親睦と写真技術向上をめざし、素晴らしい写真の世界をご堪能ください。



入会費用

入会金 1000円 (税込)
年会費 3000円 (税込) ご入会日より1年間。
※但し2年分の年会費をご入会時にお納めください。

特典

- マミヤカメラクラブ会報 (Mamiya Gallery) の発行。
- クラブ撮影会の開催。
- 勉強会・セミナーの開催。
- ホームページ上に会員作品ギャラリーの開設。
- マミヤ製品修理・点検料金の割引。
- 会員証、オリジナル会員バッジ提供。
- オリジナル会員名刺制作 (有料)。

●製品・修理に関するお問い合わせは、サービス受付へご相談ください。

- 修理をはじめオーバーホール、清掃等を承ります。
- 操作上の疑問にもお答えしています。

Phase One Japan 株式会社

物流センター内サービス受付
〒385-0052 長野県佐久市原 547

TEL.0267-62-8036 FAX.0267-62-8137

営業時間 9:00~17:50 土、日、祝日は休業



マミヤカメラクラブ事務局

〒113-0033 東京都文京区本郷 3-39-14 ワイズビル 株式会社ワイズクリエイト内

TEL.03-5689-2776 FAX.03-5689-2786

E-mail :info@mamiya-club.com

- マミヤカメラクラブの入会お申込み等お気軽にお問い合わせください。
- 撮影会・イベントのお申込み・お問い合わせを承ります。
- 下記、ホームページでも詳しくお知らせ致しております。是非ご覧ください。

マミヤカメラクラブホームページ <http://www.mamiya-club.com/>

- 株式会社ワイズクリエイトでは、下記のような業務を行っています。

- ◎フェーズワン製品・大中判カメラ販売を致しています。
- ◎撮影アクセサリ、ザックの販売を致しています。
- ◎プロラボ現像・プリントを承ります。
- ◎撮影会・ワークショップ・セミナーを開催しています。

ワイズクリエイトは写真を通じて人と人、人と自然とのコミュニケーションを確立する事を目的とするフォトオフィスです。
大中判カメラ専門ショップを展開、自然写真家、山岳写真家による写真セミナー、撮影会の開催、写真集の出版、写真レンタル、各種制作業務等、写真に関するソフトとハードあらゆる業務を行います。
www.yscreate.co.jp



キリンビール、富士フィルム、HOYA、WAKO ヤクルト、カゴメなど数々のコマーシャル写真を 撮影担当。広告写真家・熊谷晃さんに迫る。



今回の巻頭企画に登場頂くのは、先日のクラブ主催「上野・御徒町界限撮影会」にゲスト参加頂いた広告写真家の重鎮・熊谷晃さんです。撮影会時のお話で40年間もの間に数々の広告写真を撮影した事をお聞きしましたが、何とその中にはマミヤ社の広告写真も含まれていたのです。

また、前職で私が日本広告写真家協会賛助会員だった時、先輩会員から「ビール会社の広告写真を撮っている人は一流の広告写真家だよ」と聞いていましたが、熊谷晃さんはキリンビールの広告写真を長年にわたり撮影担当された写真家でもあります。早速お話を……。 (木戸)



熊谷 晃 (くまがい あきら)

1940年、島根県仁多郡生まれ。1963年上智大学法学部卒業。北欧留学、1970年スウェーデン王立工芸大学写真科修了。帰国後主に商品撮影を中心として活動。1975年スタジオK&A設立。キリンビール、ヤクルト、富士フィルムなど数多くの広告写真を手がける。その他にも、雑誌連載や海外にて撮影セミナーの講師も務める。著書に「商品撮影の基本を学ぶ(玄光社)」「私とカメラ スウェーデンとハッセルブラッドに学ぶ(写真工業)」等多数。2016年まで40年間に及びスタジオK&A代表。東京都港区南青山在住。



残念ながら今は無くなってしまいましたが、マミヤ社のRZ67カメラの雑誌広告も熊谷晃さんが担当されていました(写真中・上中下3枚)。本年2月24日開催されたクラブ主催の「上野・御徒町界限撮影会」にゲスト参加された時の熊谷晃さん。気さくに参加者にも話しかけられていました。表紙: 自宅近くの銀杏並木に絡まるホイチゴを持ち帰り、スウェーデンの新聞の上に配置し撮影。

写真との出会いと欧州留学について——

中学生の時に父親からワルツフレックスを買って貰ったのがカメラとの出会いでしたね。その後も写真は撮っていましたが、入学した上智大学で卒業アルバム委員になり、その時同好会みたいでしたが写真部を作りましたね。上智大学を卒業し、(株)オリコミ社に入社しましたが、花形の営業職ではなく印刷物を取り扱う業務部に配属してもらいました。その代わり3年間印刷の仕事をして、沢山のポジ写真(フィルム)に触れることが出来て大変なためになりましたね。もちろん印刷のこともよく分かるようになりましたね。

3年経って退社後、写真に関わりたくて著名な写真家HさんとSさんのどちらかに弟子入りしようと考え、結局Sさんに弟子入りしました。しかし、自分の考えていた写真と少し違和感を覚えて、それじゃあ自分の好きな写真を撮ってきてもいいなと「見せる」と北欧留学を決めました。

入学したのは写真には直接関係ありませんが、国民高等学校と言って全寮制で性別不問で年齢制限も無い学校でした。そこに6ヶ月在学していましたが、沢山写真を撮りましたね……。26~27才の頃だったと思います。

スウェーデン王立工芸大学写真科へ入学——

国民高等学校の学長推薦もあり、審査資料と写真10~20点を提出して、スウェーデン王立工芸大学写真科を受験しました。そして見事に合格したのですが、生徒はスウェーデン人2名、フランス人1名と日本人の私で4名でした。王立学校という事もあり授業料は無料で、夏休みにはスーパーマーケットでアルバイトしてお金には困りませんでした。この時期は、沢山の地元の人々や学生仲間を撮影していましたね。またいろいろなジャンルの写真を撮影しましたよ。因みに、この時撮った写真は未発表のままです。

コマーシャル写真との出会い——

約5年間の欧州生活後、30~31才頃に帰国しました。帰国して直ぐにお見合いをし結婚もしたので、飯田橋にある(株)東陽印刷所のクリエイティブセンターに入社しました。ここで始めて商業写真と出会ったわけですが、自分は下地もあるので、何の問題も無く商業写真も撮影出来ると入社時から自信を持っていましたね。そしてキリンビールやHOYA、カゴメ、WAKO、富士フィルム、ヤクルトなどの商品撮影を5年近く担当していました。その後、クリエイティブセンターの縮小(解散)に伴い独立を考慮したのですが、各企業から熊谷晃・個人として撮影の仕事を受けて欲しいとの要望がありました。ただ、独立するのに既存のクライアントを持ち出しするのは嫌だったので、(株)東陽印刷所の社長から「気にせずに撮影を続けてくれ」と言われ、1975年に文京区音羽にスタジオK&Aを開設しました。

スタジオK&Aについて——

スタジオK&Aは熊谷さんとアルファベットAの写真家の共同スタジオですかと質問されるのですが、実は「K」が「熊谷」で、「A」が「晃」と名前そのままなんです。スタジオ開設時には、上智大学卒業なので「スタジオソフィア」にしたら良いなどアドバイスもありましたが、シンプル名称にしてみました。

文京区音羽のスタジオはワンフロア約30坪程で、5階6階の2フロアを借りていました。アシスタントも学校推薦や紹介で女性が多かったのですが8名位居ましたね。女性は3~4年勤めると皆さん寿退社する方が多かった様です。

クライアントは、前述の会社以外にもマミヤやポラロイド、更にはコマーシャルフォト誌や中国のカメラ誌にも執筆するようになり、かなり忙しかったと思います。特にHOYA等は広告写真は少なかったのですが、カタログ写真撮影が多く年間3冊分撮影したこともありました。

熊谷 晃ギャラリー No.1

熊谷晃さんがお持ちの数ある写真の中から、クライアントや肖像権、著作権に問題の無い作品を一挙公開させていただきます。



コマーシャル写真について——

キリンビールの撮影は泡を立てたり、水滴を付けたりという大変でした。コマーシャル写真については人から教わっていたことは無いので、自分で創意工夫して撮影していました。泡を立てる小道具やライティングの装置なども自分で作ったりしていました。コマーシャルフォト誌から度々それらの質問がありましたが、都度説明するの面倒なので、泡立てをする時は注射器を使うなどその全ての方法を発表してしまいました。ただ、方法が分かったからと言って、直ぐに撮影が出来るものではなく、長年の経験や勘もなければ完全な撮影は出来ないと思いますね。

富士フィルムの仕事は30年くらいしていましたが、新製品のポジフィルムの開発では8x10インチフィルムを使用して、それこそ沢山撮影テストしましたね。「ベルビアフィルム」も思い出深いひとつです。もちろん開発の仕事だけではなく、新製品カタログ、広告写真や機関誌パブリックも担当させて頂きました。

また、富士フィルムと同業になるのではと思ったポラロイドの仕事も、富士フィルム社の担当者が「当社はフィルムだから大丈夫ですよ」と言う事で、ポラロイドの8x10インチのインスタント写真の撮影も担当し、機関誌・インフォーカスにも発表しています。

ママヤはRZ67カメラなどの雑誌広告用の撮影を担当しましたし、その他数えきれない広告写真を撮影しましたが、その殆ど全てが大判カメラによるものでした。

コマーシャル写真の得意分野は——

免許を持っていないので・・・自動車撮影以外は何でも撮影してきましたが、特に得意とするのは「ガラスと光るもの」「ビールのシズル」です。ライティングは大事な要素ですが、ライティングに関してはそんな凝っていませんよ。沢山撮って、撮影を沢山体験することですよ。こなした数が実績になるのですから。

デジタルカメラについて——

初めてデジタルカメラを導入したのが15年ほど前で、富士フィルムのFine Pix S5 Proでした。ただ、当時のデジタルカメラはオートフォーカスも遅く中々なじみませんでしたね。その後も人のすすめで中判デジタルバックのフェーズワンを導入し、大判ビューカメラに装着し撮影で使いましたが・・・残念ながら、ピント、構図を確認してからスライドしてデジタルバックに切り替え、更に本シャッター前にプレシャッターを切り、数秒の内に本シャッターを切らなければならぬなど制約が多く、結局は使わずじまいでした。特にビールの写真撮影では、一瞬しかシャッターチャンスが無いのでシャッター操作が煩わしいのは厳しいですね。

また、フィルムは撮影終了して現像所に送れば終わりですが、デジタルの場合はパソコンで現像作業、トリミング、色補正作業も残されています。

スタジオK&Aを昨年クローズされたのは——

スタジオK&Aで40年間活動を続けてきましたが、私も77才になり、「コマーシャル写真ではやること全てをやりきった」との思い、「友人達と再会」と「コマーシャル写真から離れてスウェーデンに帰ってみたい」と思った事ですかね。

コマーシャル写真の撮影は止めたのですが、プライベートでの写真撮影は好きな花を撮る等、かなりの写真を撮り続けています。先日参加させて頂いた町歩きの写真撮影にも興味がありますね。

【ある資料で熊谷晃さんが話された言葉が見つかりましたのでご紹介します】

「広告業界におけるデジタル化の勢いは止まりません。さらに、画像処理の普及が進むにつれて、広告が本来の写真づくりから次第に離れていくように感じてなりません。写真を専門とする人間として、〈本来の写真づくりの楽しさ〉を伝えることはできないものか・・・」

熊谷 晃ギャラリー No.2



プロ写真家について—

奈良原一高さんや初期のアラーキーさんの写真が好きですね。近頃はプロ写真家の写真がつまらなくなっていると感じます。特に人物が面白くないですね。カメラマンの個性が出る写真、それがアートなのだと思います。

アマチュアカメラマンについて—

好きな被写体、興味のある被写体があったら積極的に撮影してください。必ず上手くなりますよ。私は料理が好きなので、自分で料理を作って自分で写真を撮っています。

また、写真をプロ写真家に講評して貰う機会に、「ここをこうトリミングすれば良くなる」や「ここをこうした方が良い」と言われる時があると思います。しかし、私の場合は、こことここが『好き』や『良い』と思うとしか言いません。写真人として育った北欧では、人の撮った写真を批判するのはタブーでした。「私はこの写真を見てこう感じる」ということを伝えた方が、更に上手くなると思います。

写真撮影で一番重要なのは「構図」だと思います。それは私がコマース写真を4x5、5x7、8x10 インチの犬判カメラで40年間も撮影してきた経験から言えるのですが、後でトリミングできるからと安易に沢山シャッターを切るのは止めた方が良いと思いますね。

クラブ会員の皆さんの写真を見るのを楽しみにしています。

熊谷 晃 作品発表媒体

熊谷晃さんは、広告写真とは別にいろいろな書籍・機関誌に多くの作品を提供していますが、幾つかをご紹介します。



「商品撮影の基本を学ぶ」 著:熊谷 晃

「熊谷 晃 ギャラリー」をご覧になりましたが、如何でしたでしょうか?流石に創意工夫と40年のキャリアとで撮影された写真は迫力満点で圧倒されるものばかりですね。これらの写真に興味のある方に2015年に玄光社から出版された、熊谷晃さんの「商品撮影の基本を学ぶ」を紹介致します。書籍説明には「さまざまな広告写真で活躍するベテランフォトグラファー 熊谷晃氏が教える、商品撮影における極意を伝えます。これから商品撮影を始める初心者から、もっとステップアップしたい、中級レベル、新たな撮影のアイデアを求めているプロまで、読んでいるうちに何かしらヒントを得られるはず。難しく考えられがちな「商品撮影」を楽しんで取り組めるようになる一冊。」とあります。Amazonでも好評発売中ですので興味のある方は是非ご注文ください。

書籍名:「商品撮影の基本を学ぶ」 ISBN-10: 4768306233 価格: 1800円+税
ムック: 107ページ ISBN-13: 978-4768306239
出版社: 玄光社 (2015/5/25) 発売日: 2015/5/25



東京下町界限カメラ散歩 「御茶ノ水界限」で撮影した私のベストショット。

マミヤカメラユーザーを訪ねて。



坂東 浩 さん

写真へのこだわり

場面場面の持つ空気感を画面にいかに取り込むか、どう表現すれば伝えられるのか、を考えながらシャッターを押しています。

また、記録としての写真を大事に一期一会を切り取っています、が、納得のいく写真はいまだ撮れていません。もう少し頑張ります。

坂東 浩 (ほんどう ひろし)

1946年、山口県生まれ。学生時代から趣味写真を始める。1969年就職後は業務多忙で35mm、6×6でポチポチ継続、定年を迎えるころから大判写真の緻密で立体感ある表現力に魅力を感じ大判カメラを入手、現在はデジタルと大判で奮闘中。



マミヤカメラクラブでは定期的に東京の下町界限を巡る撮影会を開催しています。2018年3月に開催された「神田・秋葉原界限撮影会」でその開催回数は16回になり、今後も「浅草・かっぱ橋界限」「門前仲町界限」「両国界限」等と継続開催する予定です。今回の「ユーザーを訪ねて」は界限撮影会に積極的に参加されている、坂東浩さんにご登場頂き、「お茶の水界限」で撮影されたベストショットを紹介させていただきます。2020年開催予定の東京オリンピックが近づき、東京の変貌スピードは更に加速しています。写真が持つ本来の目的でもある「記録性」からも、会員の皆様も是非下町界限を訪れ、変貌する東京を記録してみませんか・・・。



聖橋から見る地下鉄



駿河台男坂を上る女性



水桶に映る奉納絵馬



レンガ壁面の木陰模様



ビル壁面ガラスに映るニコライ堂



酒ケース上に並べられた昭和



聖堂内の小道を歩く女性一人



カトリック教会のフェンス飾り



堂々のニコライ堂



黄葉落ち葉に消えゆく人



生活の場



白い壁と白い自動車

定番の写真加工ソフト「PHOTO SHOP」の「Photomerge」を使ってパノラマ写真を作ってみよう。



今、パノラマ写真が注目されています。スマホでも写真撮影に「パノラマモード」があります。撮影方法はパノラマモードを選びスマホを被写体に向けパーンして行く方法です。三脚も使わずにパーンした時の水平基準はどうなっているのだろうと多少の不安がよぎりますが、まあそれなりのパノラマ写真が完成してしまいます。ですが・・・私達の様に写真を趣味としているのだったら、もっと高度なパノラマ写真を楽しみたいものですね。今回の特集は、通常の撮影時にもう一枚余分にパノラマ写真撮影をプラスして、新たな作品を作ろうと言う提案です。その方法は、写真愛好家が結構な割合で所有している写真加工ソフト「PHOTO SHOP」を使い、本格的なパノラマ写真を完成させるものです。意外と簡単にパノラマ写真ができてしまいますので是非チャレンジしてください。(木戸)

【パソコンで作るパノラマ写真のメリット】

パノラマ写真撮影のために、上野・不忍池に出掛けました。
【撮影時の注意点】 作例写真のため構図は無視して、不忍池に建つ弁天堂を中心とした左構図①と右構図②の2枚を撮影しました。この2枚をパソコンで繋ぎ合わせて、上のパノラマ写真を完成させます。通常のデジタルカメラでパノラマ写真を写そうとする場合、空と手前の蓮を大きく入れた構図で撮影し、上下をトリミングカットしてパノラマにするのが一般的ですが、この方法ではカメラの持つ総画素数の半分くらいの画素しか使わないことになります。ところがパソコンでつなぎ合わせれば重なり部分はあるものの、約2倍近くの画素数のパノラマ写真を作ることができます。

【パノラマ撮影時の注意点】

予め2枚の写真を繋ぐことを前提としていますので、撮影時には極力三脚を使って2枚の写真の水平が出る様に心掛けて撮影してください。またパノラマ写真作りにPHOTO SHOPの「Photomerge」を使いますので必ず2枚の写真の中に、重なり合う被写体を入れることが重要です。今回はこの重なる部分を弁天堂としました。撮影で注意する点はこれだけです。後は「Photomerge」が自動処理して完成度の高いパノラマ写真を生成してくれます。

それでは実際にパノラマ写真を作るパソコン作業を右ページに写真入りで紹介致しますので是非お試しください。



弁天堂左構図①と右構図②

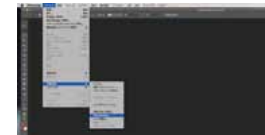


パノラマ写真を作ろうとする場合は極力三脚を使用します。

《Photomergeでのパソコン作業》



①パノラマにしようとする画像2枚を予め分かり易いホルダーやデスクトップに用意します。今回はデスクトップに2画像を用意しました。



②PHOTOSHOPを起動し、「ファイル」から「自動処理」、更に「Photomerge」を選択クリックします。



③写真の様に、「Photomerge」メニューが表示されます。「レイアウト」メニューの中で、「自動設定」に黒マークがあることを確認します。



④「参照」ボタンを押し、予め用意したパノラマ用の画像2枚を選択します。



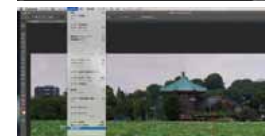
⑤使用ファイルウィンドウの中に、パノラマに使用する画像の名称(番号、拡張子)が表示されたことを確認し、右上の「OK」ボタンを押します。



⑥パソコンの自動処理画面が現れ、暫くするとパノラマになった画像が表示されます。



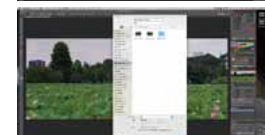
⑦「Photomerge」で処理された画像の上下左右に余分な余白も出現しますが、これらを避けてトリミング、切り抜きを行います。



⑧完成された写真は、システム上レイヤー画像になっていますので、「PHOTO SHOP」の「レイヤー」から、「画像の統合」を選びクリックします。これによりレイヤーの無い1枚の写真として完成です。



⑨完成したパノラマ写真は、必ずパソコンに保存しておきましょう。「ファイル」から「保存」を選びクリックします。



⑩「保存」をクリックすると左の画面が出ますので、名称を付けておきましょう。今回は「不忍池パノラマ」として正式保存しました。

大判カメラ のすすめ

その12

今回の使用機材はビューカメラの
ホースマン LX に 180mm レンズ
を装着しました。光源は長い写
真用蛍光灯が 10 本がセットされ
た定常光源を使い、感材は今は
販売されていませんが、撮影して
直ぐにプリントが完成する富士モ
ノクロインスタントフィルムの
ISO100 タイプを使用しました。



今号の「大判カメラのすすめ」は撮影台の上に缶コーヒー 6 本を斜めに配置し、これを俯瞰する位置にビューカメラを構え撮影します。缶コーヒーの垂直線を整えるバックチルトアオリ、更に斜めに列んだ缶コーヒーの全てにピントを合わせるスイングアオリを掛けて写真を完成させたいと思いますが、スイングアオリに於いてはフロントとバックアオリの違いも検証します。(木戸)

【アオリの基本は①ピント面のコントロールと②形に修正】

大判カメラで使うアオリの種類は大きく分けて二つになります。一つ目がピント面のコントロールアオリで、例えたと近景～中景～遠景の全てにピントを合わせるパンフォーカスアオリ（この逆に一部分のみにピントを合わせる事が出来ます）が代表的です。二つ目が形の修正アオリで、高い建物を下から撮影すると、建物上部が先ずぼまってしまうのを直したり、円柱型の被写体を俯瞰して撮影すると頭でっかちに写ってしまうのを修整するアオリです。

今回の被写体は円柱型の缶コーヒーを斜め横に並べているので、先ずはコーヒー缶の垂直線を修整する形の修整アオリをかけて、更に斜めに列んだ缶コーヒーの全てにピントを合わせる、ピント面のコントロールアオリをかけて完成となります。何故ピント面のコントロールアオリが必要になるかと言うと、レンズから缶コーヒー 1 本 1 本までの距離が一定では無いからです。因みにアオリ機構の無いカメラでは絞り込みによって被写界深度を稼ぎ、全ての缶コーヒーにピントが合う様にしますが、その分シャッター速度が遅くなる事をご理解ください。

【形に修整アオリの基本はバックアオリを垂直にする事】

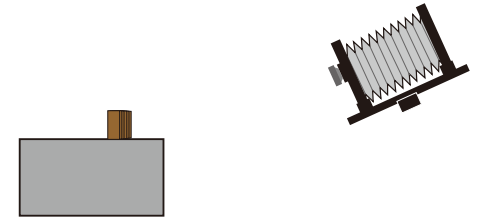
何故形の修整アオリが必要かを、今回の缶コーヒーで説明すると、撮影台に置かれた缶コーヒーの垂直線に対して俯瞰位置にセットしたカメラのバック部（フィルム部）が斜めになっているからです。この事により缶コーヒーの上部が下部に比べ頭でっかちになって写ってしまいます（缶コーヒーを見上げるカメラポジションではこの逆に先ずぼまりに写る）。アオリ機構の無いカメラでは、これを解消するには缶コーヒーと水平の位置にカメラを構え撮影するしか方法はありません。ただしこの場合は、缶のプルトップ部分が写らずに平面的な写真になってしまいます。形のコントロールアオリを使えば、プルトップ部分も写る垂直線の整った写真が完成します。この場合の基本はバックアオリを垂直にすることです。

【ピント面のコントロールアオリはフロントアオリとバックアオリではイメージに相違がでます】

ピント面のコントロールアオリは、シャインフリュークの法則を用いれば手前の缶から一番奥の缶まで全てにピントを合わせることは容易です。ただ、フロントアオリを使った場合と、バックアオリを使ったシャインフリュークの法則では、撮影した写真に差が出てしまいます。このことを十分に注意して撮影する必要があります。よく「パンフォーカス写真はバックアオリしか使わない」と言う人がいますが、その違いを確認してください。



にカメラポジションを決め撮影します。缶コーヒーを俯瞰しているので缶の上部が下部に比べ大きくなっているのが分かります。更に絞り・F8で撮影していますので、一番手前～2本目の缶位にしカピントはありません。



上記の状態から頭でっかちの缶コーヒーが不自然と推察して缶コーヒーと同じ様にバックアオリの平行の関係（垂直）にし、更に缶上部と下部のピント面を同一にするためにフロントアオリも垂直にします。これで缶コーヒーも上と下が同じ太さになりスマートになりました。上の写真と缶の高さを比べてください。ただし、絞りは同じF8なので奥の缶コーヒーまでピントが合っていない。



缶コーヒーの形が修整されたので手前は手前の缶から奥の缶までフロントアオリを使ってピント面コントロールを行います。如何でしょうか、これで6本全てに垂直線が整い、全てにピントの合った整った写真が完成です。俗に言う複合アオリを使った撮影例です。



複合アオリを使い完成した写真ですが、シャインフリュークの法則ではバックアオリを使って缶全てにピントを出す事も可能です。今回はバックアオリを使って写して見ました。写真を比較して下さい。基本的にバックアオリは形を修整するアオリなので手前の缶がより強調された写真になっています。昔はレンズのイメージサークルも小さかったのでバックアオリを使ったシャインフリューク撮影が多かったのですが、今はレンズ性能も上がっていますので、より自然に近いフロントアオリを使うシャインフリューク撮影をお勧めしたいと思います。



石畳残る粋でお洒落な神楽坂界限

新企画!
QRコードで動画が見える

神楽坂と言えば「料亭の町」「粋でお洒落な町」「モンマルトルの様な町」と言われ多くの観光客も訪れますが、メイン通りより一本奥に入ると情緒あふれる石畳の路地が続き、落ち着いた雰囲気を楽しむことができます。また開運・厄除けの毘沙門天・善國寺やモダンな赤城神社もあり、カメラ片手に歩く写真散策にはぴったりのエリアと言えます。今回の特集は初めての試みとして「石畳の細道」、「赤城神社」を動画にて紹介したいと思います。表示のQRコードをスマートフォンでスキャンすると、居ながらにして神楽坂を歩く体験が可能となります。是非お試しください。



【動画で歩いてみよう】
赤城神社を訪ねる



左のQRコードをスマホで読み取って動画をお楽しみください。

【動画で歩いてみよう】
飯田橋駅から神楽坂下へ



左のQRコードをスマホで読み取って動画をお楽しみください。

【動画で歩いてみよう】
石畳の小道を散策



左のQRコードをスマホで読み取って動画をお楽しみください。

【編集後記】今号で初めての表現手法があります。それは本ページにあるQRコードを使ったもので、これまでは写真やテキストでしか表現できなかった紙面情報に、初めて「動画」の情報を加えたことです。情報誌でも今までは一枚の写真から周辺のイメージを想像するしかありませんでしたが、「動画」をプラスすることで情報の信頼性がより増し、更にイメージも大きく広がります。本邦初公開のQRコード企画をお楽しみ頂けたらと思います。また同手法は制作中の「東京下町界限カメラ散歩」にもふんだんに採用されています。 木戸

①②神楽坂セントラルプラザの下を覗くと緑の水景色が出現。驚もいますよ。
③④飯田橋から牛込天神方面を走る神楽坂メイン通り。⑤ここだけしか無いペコちゃん焼き。⑥善國寺でお参りを。⑦メインストリートに戻りいざ石畳。
⑧⑨⑩⑪⑫幾つかの石畳は何回歩いても飽きません。猫に出会えるかも……。⑬⑭見落としてしまいそうな神社と銭湯。

⑮大久保通りを渡ってもメインストリートは続きます。⑯東京メトロ神楽坂の手前を右に折れると大きな鳥居が、⑰⑱そこが赤城神社です。狛犬に注目。⑲神楽坂駅を過ぎたところにある英国風洋館のギャラリー（登録有形文化財）。⑳神楽坂まつりの阿波踊りも有名で、多くの観光客が訪れます。